日本維新の会
京都市議団
発行元 宇佐美賢一事務所
〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町14-9 携帯：090-6322-3441
ファックス：075-712-3810 メール：info@usamikenichi.jp
R2年9月号

宇佐美賢一（うさみ） 市会だより

コロナ禍の今こそ 京都市政の足元を見直す時
どんぶり勘定を止めるべし

私は初当選以来、京都市の財政の立て直しを訴えてきましたが、今回、財政再建の遅れから自治体の貯金にあたる財政調整基金が底をついた状態でコロナ禍に突入してしまいました。その結果、京都市が独自の機動的な財政出動を行えていないことは痛恨の極みであります。

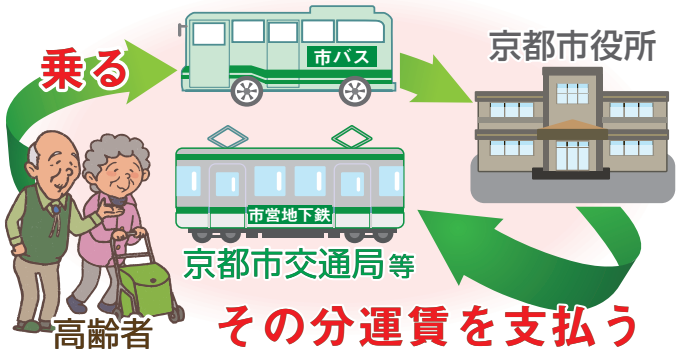
「今」、役所がすべきは、感染症対策はもちろんのことですが、自らの足元を見直すこと、特に政策の考え方、執行の仕方を見直すことだと考えます。特に、役所的「どんぶり勘定」を止めるべきです。例えば敬老パスです。

敬老パスは、高齢者の方の所得に応じて一定の負担（年間3,000円負担の方が一番数が多い）をいただきつつ、高齢者の方が地下鉄やバスに乗る運賃を京都市が交通事業者に支払う福祉サービスです。この支払う取り決めが「敬老パス1枚につき基本的に月16回乗る」とし、1回あたり約190円で計算し、発行枚数と掛け算して支払われています。その京都市の税金からの負担額は約51億円となっています。京都市では、どの地域の人がどの程度使われているか、一人の方の利用回数がどうなっているか等の実態が全く把握できていません。地域差や個人差など政策の偏りも指摘される中、私は、「利用実態を明らかにすべし、その為にもまずは敬老パスのICカード化を」と求めてきました。実は、今回のコロナ禍では、利用者が明らかに激減しているにもかかわらず、このままで行けば、乗っていない乗車賃を税金から予算満額の約51億円支出することになりかねません。この支出方法は見直すべきです。本件について議会で問題提起しましたが、未だ支払額を変える動きは見えてきません。何事も一事が万事であります。このように市政に散見される「どんぶり勘定」を止め、財政もしっかりと立て直しつつ、必要な方に必要な施策が届く、継続して届く、何よりも機敏・柔軟に行動する新しい京都市政を目指し行動してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策に関して、速やかに補正予算を審議し実施しています。経済対策、学校や公共施設等の最新の情報は「京都市ホームページ」でご確認ください。

京都市ホームページ 検索
京都市H.P. QRコード→
https://www.city.kyoto.lg.jp/

敬老パス制度のあらまし



生年月日 昭和45年10月11日
家族構成 妻（旧姓:今本）と子ども2人

平成 6年	京都大学法学部卒
平成 6年	三菱重工業入社
平成17年	㈲ウサミ商会 代表取締役
平成22年	行政書士開業
平成27年	京都市会議員選挙 初当選
平成31年	京都市会議員選挙 2期目当選

- 京都府行政書士会 第4支部 会員
- 左京消防団 松ヶ崎分団
- 京都市左京ジュニア消防団
- 松ヶ崎小PTA会長（平成24年度）
- 下鴨中PTA会長（平成28年度）

市政相談のお知らせ

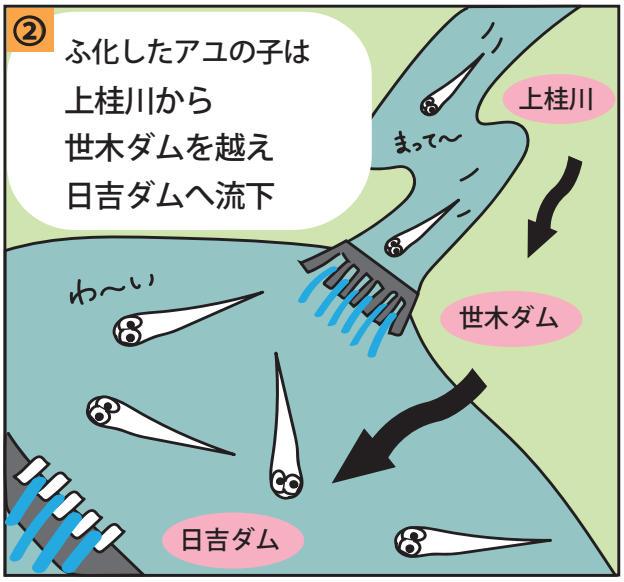
市政相談を随時受け付けております。
090-6322-3441
までご連絡をお願いします。

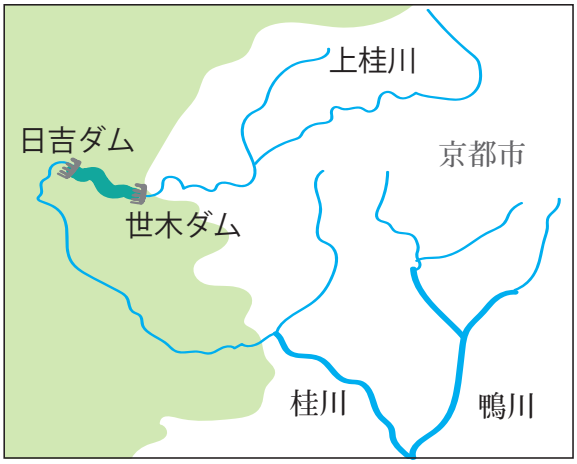
市会議員 宇佐美 賢一 LINE公式アカウント ご登録お願いします。

宇佐美賢一 検索

バックナンバーはホームページをチェック!
http://usamikenichi.jp （QRコードは→）

地域の価値の再発見。
上桂川の陸封鮎を活かす取り組みを！



「陸封鮎（りくふうあゆ）」とはなんでしょう。鮎は秋に産卵し、生まれた稚魚は川を下り海に達します。そこでプランクトンを食べて成長し、翌春に小鮎が故郷の川へ遡上し成魚になると言われています。ところが、例えば琵琶湖もそうですが、川を下って行った先の湖を海と思ってそこで育つ鮎もいます。それを、陸の中で封じ込められた鮎、「陸封鮎」と呼ぶそうです。

左京区北部や右京区京北を流れる上桂川では、毎年漁協の皆さんが約30万尾の鮎の稚魚を放流し、釣り客が楽しまれています。その後、釣れ残った鮎が産卵し、その稚魚が下流の南丹市にある国管理の日吉ダムで陸封鮎として大量に存在することが、市民・行政の調査で最近わかってきました。日吉ダムの入り口には主に発電用の世木ダムがあり、春先に遡上しようとしても、その堰を乗り越えられず、そのまま日吉ダムの中に居残るも、大きくなるための餌もなく、痩せ細り、また魚や鳥に捕食されてしまっているようです。ダムは国、上桂川本流は府、支流は京都市が管理、また下流の南丹市との関係もありますが、この何万尾とも予想されているダムに閉じ込められた小鮎を上桂川に再び遡上させ、地域資源として活かしていくことは、京都市北部の活性化のため、また豊かな自然の維持・継続のためにも大事なことだと思います。私もしっかりフォローしていきたいと思います。